



## 企業ごとに異なる英語ニーズにこたえる オーダーメイド教材を辻和成名誉教授が開発

武庫川女子大学の辻和成名誉教授が、関西の製造業2社を対象に企業ごとに異なる英語ニーズにこたえるオーダーメイドの自学自習教材を開発。英語自己学習研修を実践したそれぞれの社員から、高い評価を得ました。

企業社会では、ビジネス英語の重要度が高まっていますが、多くの企業では英語力の修得は個々の社員に委ねられ、体系的な社員教育の整備が追い付いていないのが実情です。そうした中、個別の企業ニーズに特化した英語教材による自己学習研修は画期的な取り組みです。

ぜひ辻名誉教授の英語学習についての見解を取材いただきたく、ご案内申し上げます。

辻名誉教授は武庫川女子大学文学部英語グローバル学科の教授・学科長としてビジネス現場での英語使用の実態調査とビジネス英語教材の開発に取り組んできました。2023年3月に退職後も、非常勤で学生に会議通訳などを指導しています。

もともとは大手自動車会社で専属会議通訳者として活躍した実務家教員。1990年代、外資との資本提携により社内での英語ニーズが高まったことを受け、特命を受けて取り組んだのが、英語自己学習支援活動「SELF」※1でした。

当時、自動車業界ならではの日英の専門用語集を編集するとともに、開発部門や海外出張者など、個別のニーズに応じた英語コミュニケーションマニュアルを作成して全社的な英語対応力強化に貢献したことが、その後の研究活動の基盤となりました。

辻名誉教授は2012年、製造業に勤務する約1000人のビジネスパーソンを対象にwebアンケートを実施。会議におけるビジネス英語に苦慮する人が多いこと、英語習得は自学自習が多数派であることを明らかにしています。

今回の研究は、こうした先行研究のうえに「SELF」を発展させ、製造業全般に対象を広げるものです。協力2社は、海外で事業を展開する中で社員の英語力強化が課題となっていたことから、科研費の助成（2021～2025年）※2を受けて導入に手を挙げました。

辻名誉教授は2社に対し、インタビューとアンケートを実施し、製品開発プロセスと各フェーズにおける主要な承認事項を確認。さらに会議資料や経営に関する各種データの提供を受け、テキストや語彙を分析し、それぞれの企業向けの自学自習教材『ビジネス英語ハンドブック SELF』と『ビジネス英語ワークブック SELF』を作成しました。

『ビジネス英語ハンドブック SELF』はプレゼンとディスカッションを中心にした「会議英語」と、その企業特有の動詞、名詞を中心とした「専門英語」の2つのセクションで構成されています。「会議英語」には、「会議の開催」や「製品開発の提案」をはじめ、企画、営業、品質などの部署・職務に関する9つの章が含まれています。一方、『ビジネス英語ワークブック SELF』には、並び替え問題やリスニング問題に加え、リテンション、日英変換、シャドーイング、サイトラなど、厳選された口頭練習を取り入れています。

2025年6月、辻名誉教授が2社の受講者約60人を対象に、ビジネス英語研修および教材の概要、学習方法を伝えるガイダンスを実施。その後、自社向けの教材を利用して1回あたり45分の自己学習を週2回、6～8週間にわたり実施しました。研修後のアンケートでは、受講者から「実務に役立つ」「主体的な学習方法が学べた」など、肯定的な意見が多数寄せられました。

辻名誉教授は「業界や企業ごとに、知っておくべき語彙やフレーズは異なる。ニーズに合致した教材と学習方法の修得ができれば、自己学習がコストも含め、最も実効性の高い手段となりうる。今回の研究成果を分析・発展させ、ビジネス英語の自己学習プログラムの確立を目指すとともに、組織的な英語力強化を要する企業への支援を進めていきたい」と話しています。

本調査研究は、企業秘密も含めた完全オーダーメイド方式のため、「秘密保持契約」を締結したうえで協力企業2社と連携して行っていますが、このうち一社から「今回の教材開発およびビジネス英語研修に関するインタビューへの対応が可能」との回答を得ています。

※1 Systematic English Learning Facilitation（体系的な英語自己学習支援）：組織の英語対応力強化を支援する活動

※2 「企業の経済活動を基軸としたオーセンティックな体系的ビジネス英語教育の基盤研究」（武庫川女子大学英語グローバル学科：辻/田中/宇佐美/細野/三宅）

この件に関する取材のお申込み、お問い合わせは武庫川女子大学広報室

Tel 0798-45-3533

E-mail [kohos@mukogawa-u.ac.jp](mailto:kohos@mukogawa-u.ac.jp)

へお願いします。



辻名誉教授



2社それぞれの実情に合わせた

『ビジネス英語ハンドブック SELF』と『ビジネス英語ワークブック SELF』